

2027年国際園芸博覧会 プレイベント・サステナビリティレポート

2026年9月

公益社団法人2027年国際園芸博覧会協会



本レポートの位置づけ	P 1
1 本博覧会について	
1.1 本博覧会の趣旨	P 3
1.2 本博覧会のテーマ	P 4
1.3 本博覧会の準備状況	P 7
2 サステナビリティ	
2.1 本博覧会の開催意義とサステナビリティ	P12
2.2 サステナビリティ方針	P12
2.3 サステナビリティの歩み	P12
2.4 サステナビリティ基本方針と目的・目標	P17
2.5 目的ごとの具体的な取組内容	P17
2.5.1 気候変動対策	P17
2.5.2 生物多様性の保全	P20
2.5.3 サステナブルな調達と資源管理	P23
2.5.4 公平性と包摂性	P26
2.5.5 サステナビリティ教育と意識向上	P30
3 持続可能な開発目標（SDGs）への貢献	
3.1 SDGsへの貢献	P34
3.2 SDGs目標の達成方法	P34
別紙 1 サステナビリティ戦略 基本方針	P38
別紙 2 サステナビリティ戦略 KPI	P40

2027年国際園芸博覧会（略称「GREEN×EXPO 2027」）は、「幸せを創る明日の風景～Scenery of the Future for Happiness～」というテーマのもと、国際連合の掲げる持続可能な開発目標（SDGs）の達成に貢献するとともに、国際的な園芸文化の普及、花と緑があふれ農が身近にある豊かな暮らしの実現、多様な主体の参画等により幸福感が深まる社会の創造に寄与することを目指している。

「2027年国際園芸博覧会 プレイベント・サステナビリティレポート」は、公益社団法人2027年国際園芸博覧会協会が、国際園芸家協会（以下、「AIPH」）に報告する予定である3つのサステナビリティレポート（①「プレイベント・サステナビリティレポート」（建設工事と準備段階に焦点を当てた報告書、開会6か月前までに発行）、②「ポストイベント・サステナビリティレポート」（博覧会最終報告書、閉会3か月以内に発行）、③「サステナビリティ及びレガシーレポート」（博覧会の長期的な効果等を評価した報告書、閉会3年以内に発行）のうち、1つ目のレポートである。

本レポートでは、本博覧会が社会にもたらす中長期的なインパクトの最大化、SDGsへの貢献とポストSDGsを見据えた地球規模課題とその解決に向けた取組に係る世界的な発信、及び国際園芸博覧会の歴史やレガシーの継承に向けて、これまでの推進事項と今後の準備・検討事項の取りまとめを行った。

なお、特段の表記がない場合は、2026年3月末日時点の情報を記載している。

1 本博覧会について



1 本博覧会について

1.1 本博覧会の趣旨

国際園芸博覧会は、国際的な園芸・造園の振興や花と緑のあふれる暮らし、地域・経済の創造や社会的な課題解決等への貢献を目的に開催される。

本博覧会は、AIPHの承認及びBIE（博覧会国際事務局）の認定を受けて開催する最上位（A1）の国際園芸博覧会であり、花や緑との関わりを通じ、自然と共生した持続可能で幸福感が深まる社会の創造を提案、横浜から明日に向けた友好と平和のメッセージを発信する。



会場イメージ



キャッチコピー

1 本博覧会について

1.2 本博覧会のテーマ

本博覧会は、開催に必要な事業及びその方針を示した基本計画を2023年1月に策定している。この基本計画で定めたテーマ「幸せを創る明日の風景～Scenery of the Future for Happiness～」には、『一人ひとりが心に「幸福感を深める」ための種を自分の意志で蒔き、これを人や環境との関わりの中で育み、生命力にあふれ、個性豊かに、多彩な花を咲かせること、それが豊かさを深める社会の風景である』という思いが込められている。

さらに、テーマを展開し、具現化するための切り口として、4つのサブテーマ（「自然との調和」、「緑や農による共存」、「新産業の創出」及び「連携による解決」）を設定している。

テーマ 幸せを創る明日の風景 ～Scenery of the Future for Happiness～

サブテーマ テーマ実現の切り口

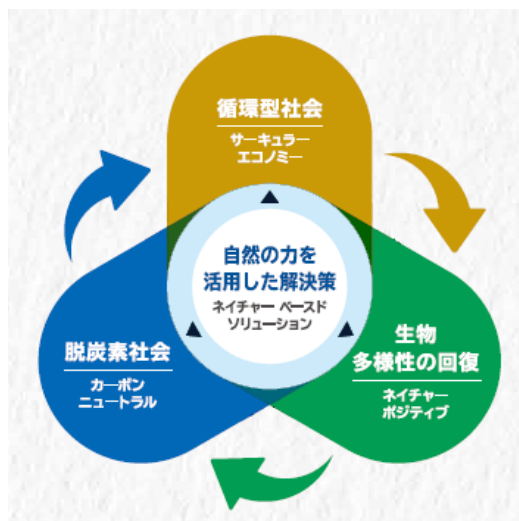
自然との調和

緑や農による共存

新産業の創出

連携による解決

また、本博覧会は、地球温暖化、生物多様性の損失、自然災害、感染症、食糧危機など、プラネタリー・バウンダリー（地球の限界）に直面した私たちが、Nature-based Solutions（＝自然を活用した解決策）という考え方により、自然や植物への理解を深め、共生しながら「幸せを創る明日の風景」を描いていく。



1 本博覧会について



● 本博覧会の概要

名 称	2 0 2 7 年国際園芸博覧会 (International Horticultural Expo 2027, Yokohama, Japan)
正 式 略 称	GREEN×EXPO 2027 (グリーンエクスポニーゼロニーナナ)
開 催 場 所	神奈川県横浜市
開 催 期 間	2027年3月19日(金)～2027年9月26日(日) 192日間
テ ー マ	幸せを創る明日の風景 ～Scenery of the Future for Happiness～
博覧会区域	約100ha(内、会場区域80ha)
ク ラ ス	A1(最上位) クラス(AIPH承認+BIE認定)
有料来場者数	1,000万人以上
公式サイト	https://expo2027yokohama.or.jp/



公式マスコットキャラクター
「トウラクトウラクト」

● 本協会の概要

名 称	公益社団法人2027年国際園芸博覧会協会 (Japan Association for the International Horticultural Expo 2027, Yokohama)
通称	GREEN×EXPO協会
目的 (定款第3条)	国際博覧会条約に基づく神奈川県横浜市における2027年国際園芸博覧会(以下「博覧会」という。)の準備及び開催運営等を行い、博覧会を成功させることをもって、国際連合の掲げる持続可能な開発目標の達成に貢献するとともに、国際的な園芸文化の普及、花と緑があふれ農が身近にある豊かな暮らしの実現、多様な主体の参画等により幸福感が深まる社会の創造に寄与することを目的とする。
設立日	2021年11月15日
会長	筒井 義信(一般社団法人日本経済団体連合会 会長)
事務総長(代表理事)	河村 正人
役員(理事・監事)	理事21名、業務執行理事5名、監事2名
事務所住所	〒231-0013 神奈川県横浜市中区住吉町1丁目13番地 松村ビル本館

1 本博覧会について

● 組織図



1 本博覧会について

1.3 本博覧会の準備状況

(1) 持続可能な運営

本博覧会のサステナビリティの実現に向けては、本協会自らが先頭に立ち、率先して行動する。さらに、運営に関わる多くのサプライヤーやサプライチェーン等に対しても、持続可能性に配慮した調達コードや運営に関するガイドラインの遵守を呼びかけ、本博覧会に関わる全てのステークホルダーが一体となって取り組む。

本博覧会は、2025年11月から一般営業出店の公募を開始した。その際に提示する公募要領では、再生可能エネルギー100%の電気の調達や省エネの推進、カーボンオフセット等の取組による本博覧会のカーボンニュートラルの推進、既存の自然環境や生物多様性を保全・活用し、グリーンインフラを基軸とした会場計画の推進、本博覧会における仮設建築物を環境に配慮された「GREENサーキュラー建築」とするなど、本博覧会の理念を踏まえた持続可能性の確保に向けた取組を要請している。

また、出展（店）者を対象とした説明会等を通じて、「資源循環の考え方」の遵守、本博覧会の理念を踏まえたアクセシビリティの対応など、持続可能な取組の積極的な実施を呼びかけている。

(2) 多様な参加者

本博覧会は、国と国際機関の公式参加による庭園や花き等の展示・コンペティションを中核とした事業を展開するとともに、本博覧会のテーマの実現に向けて民間企業や自治体、市民等の多様な主体の積極的な参加を推進している。



1 本博覧会について

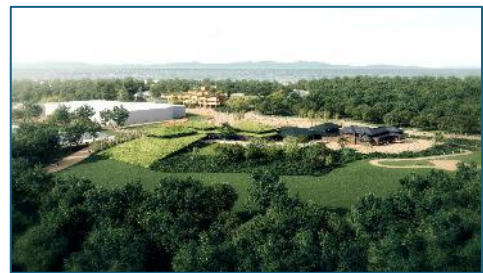
- 主催者展示として、テーマ館は「全ての生命はつながっている。植物を中心に」をテーマに、植物たちの知られざる能力と、生命同士の複雑で巧妙なつながりを「映像技術&研究成果」×「アート&エンターテインメント」の掛け算により、感動とともに届けていく。2026年3月にウェブサイト※をオープンし、テーマ館の魅力について情報発信を進めている。また、園芸文化館では、日本の伝統園芸の魅力を江戸時代に焦点を当てて紹介し、屋外では植木屋の庭・花屋敷を再現する。武家から庶民まで楽しんだ園芸、花見の文化、植木屋のビジネス、接ぎ木の栽培技術、変化朝顔の育種技術などを、映像・ミニチュア・実物展示を通じて多面的に表現する。

「テーマ館」と「園芸文化館」は、持続性と景観調和を重視して設計し、会期後は横浜市の公園施設として継承する。

※ <https://themedpavilion.expo2027yokohama.or.jp/>



テーマ館俯瞰イメージ



園芸文化館俯瞰イメージ

- 日本政府苑は、「日本の自然観を再考し、未来へ進む」というコンセプトの下、伝統的な庭園技術や、いけばな、盆栽などの園芸文化に加え、新しい農業技術やみどりの食料システム戦略、グリーンインフラ等に関する展示を、屋内・屋外で一体的に実施する。
- 「Village出展」は、各Villageのコンセプトに賛同する12者（企業・団体）が、本博覧会のテーマである「幸せを創る明日の風景」を創り上げる共創事業である。グリーン之力と産業活動が融合した姿を示し、「幸せを創る明日の風景」を感じさせる屋外空間（庭園、広場等）や展示施設で、独自の体験やコンテンツを提供する。
- 「テーマ営業出店」は、4者の出店が予定されており、庭園や広場などの屋外空間と営業施設を整備し、本博覧会のコンセプトを発信する飲食・物販などの独自営業を行うとともに、来場者と共に「幸せを創る明日の風景」を体験・共創する場を提供する。

1 本博覧会について

- 「花・緑出展」は、2026年4月20日時点で380者の出展が予定されており、花と緑のプロフェッショナルが、本博覧会でしか見られない庭園や花壇、生け花やフラワーアレンジメント、盆栽、新品種・希少種など、多種多様な花・緑の作品を出展する。また、本博覧会のテーマに沿った資源・雨水循環を取入れた展示等も予定されている。
- 横浜市出展は、2か所の拠点を設け、「建物空間を活用した発信拠点」において横浜が目指す循環型の未来のまち・暮らしを発信し、「フィールドを活用した活動拠点」において誰もが楽しめる活動の場を提供する。
- 神奈川県出展は、「"Vibrant INOCHI"一人ひとりの"いのちが輝く"」をメインテーマに掲げ、屋外庭園、屋内展示及び催事について準備を進めている。
- 国際出展については、2022年11月のBIE総会で、本博覧会が国際条約に基づく国際園芸博覧会（A1クラス）に認定されて以降、各国・地域・国際機関への招請活動を行っている。2026年6月4日時点で70か国と5国際機関が参加を表明しており、海外からの参加表明国・国際機関数は、目標の70程度に到達した。

(3) 入場チケット

開催1年前である2026年3月19日から前売入場チケットの販売を開始した。

項目	券種	概要	料金区分			販売期間	
			大人 (満18歳以上)	中人 (満12～17歳)	小人 (満4～11歳)	2026/3/19 ～ 2027/3/18	2027/3/19 ～会期中
前売チケット	1日券（早割価格）	会期中いつでも1回入場可	4,900円	3,000円	1,400円	○	
会期中販売 チケット	1日券（通常価格）	会期中いつでも1回入場可	5,500円	3,300円	1,500円		○
	夜間券	会期中いつでも17時以降1回入場可	3,500円	1,900円	900円		○
前売・ 会期中販売 チケット	特別割引券	障がい者手帳をお持ちの方および同伴者1名が購入可能で、会期中いつでも1人1回入場可	2,800円	1,700円	800円	○	○
	通期パス	会期中いつでも何度も入場可	28,000円	16,000円	6,500円	○	○
	夏パス	夏の決まった期間（7/1～8/31）に何度も入場可	12,000円	7,000円	3,000円	○	○
	一般団体割引券	15名以上の一般団体が会期中いつでも1回同時入場可	5,200円	3,100円	1,400円	○	○
				高校生	中学生・小学生・園児		
	学校団体割引券	学校団体が会期中いつでも1回同時入場可		1,700円	900円	○	○

※開場時間は会期を通して、9:30～21:30を想定。

※価格は全て日本円・税込み。（紙チケットを購入する場合は、別途追加料金を徴収予定。）

※3歳以下は無料。

※前売チケットの販売は2027年3月18日まで。

1 本博覧会について

(4) 公式アンバサダー

2023年9月19日に公式アンバサダーとして俳優 芦田愛菜さんが就任し、開催500日前（2025年10月29日）及び開催1年前（2026年3月19日）の節目の機会に行われた記者発表会に登壇した。

また、2026年3月19日には、横浜出身のミュージシャン「ゆず」が公式アンバサダーとして就任し、コラボレーションソングの制作を発表した。



GREEN×EXPO 2027 開催1年前記者発表会

(5) 環境影響評価

本博覧会の環境影響評価について、横浜市環境影響評価条例に基づき、環境影響評価の最終的な評価を取りまとめた図書である「環境影響評価書」を作成し、2024年8月に公表した。

環境影響評価では、事業計画の内容から、環境影響評価項目として温室効果ガス、生物多様性、水循環、廃棄物・建設発生土、大気質、地域社会などの項目について調査、予測が行われた。

各環境影響評価項目の評価結果から、本事業の実施による環境影響の総合的な評価としては、計画段階や工事中、開催中、撤去中に様々な環境の保全のための措置を講じることで一定の影響の回避や低減が見込めることから、事業者の実行可能な範囲で環境に対する配慮が検討された計画であると評価された。

(6) 植物調達

必要となる植物について、2025年度までに植物調達パートナー※との育成契約を締結しており、2026年度からは会場内への搬入と植え付けを行う予定である。

※協会が行う植物材料調達において、植物提案・調達・育成・納品等について一定の基準を満たすと協会が認定した事業者。

2 サステナビリティ



2 サステナビリティ

2.1 本博覧会の開催意義とサステナビリティ

我が国は、豊かな自然との共生の中で、自然環境が持つ多様な機能を暮らしに生かす知恵や文化を培ってきた。本博覧会は、昨今重要視されている気候変動や生物多様性の損失等の地球規模課題を踏まえ、我が国が培った価値を再評価し、持続可能な社会の形成に活用していくことを目的としている。

本博覧会が開催される2027年は、SDGsの目標達成年度の2030年が目前であると同時に、その先のポストSDGsの議論が本格的に開始される年とされている。これらの流れの中で、2025年に開催された大阪・関西万博のレガシーを継承し、ポストSDGsに向けたメッセージを発信していく。

2.2 サステナビリティ方針

2026年2月に、持続可能な博覧会を実現するため、「持続可能なGREEN×EXPO 2027開催に向けた方針」を策定した。本博覧会の開催を通じた多様な主体の連携を促進し、地球規模課題の解決策や、花や緑、農・食が身近にある幸せの暮らしの姿を示すことにより、人々のライフスタイルを緑や自然環境を一層尊重するものへと変革する契機とし、すべての人の意識変容・行動変容につなげる。

2.3 サステナビリティの歩み

(1) サステナビリティ戦略等の策定

本博覧会は、AIPHが認定する国際園芸博覧会のうち、国際的に最大規模で厳格なA1カテゴリーに属し、同カテゴリーにおける要求事項では、サステナビリティ戦略等の策定が規則化されている。これらの要求を満たすため、本協会ではこれまで、サステナビリティに関する考え方や計画を策定、公表し、AIPHへ報告をしている。

方針等		概要
①	サステナビリティ戦略 (2024年3月策定)	サステナビリティの取組方針を示すもの。
②	サステナビリティ実施計画 (2024年3月策定)	「サステナビリティ戦略」を実現するためのアクションや実施スケジュール等を定めたもの。
③	サステナビリティ教育計画 (2025年3月策定)	サステナビリティに関する意識向上や学習を促進する計画を定めたもの。
④	サステナビリティコミュニケーション・エンゲージメント計画 (2025年3月策定)	本博覧会のテーマやサステナビリティに関するメッセージを様々なステークホルダーに発信する計画を定めたもの。
⑤	資源循環の考え方 (2025年3月策定)	資源循環の検討方針や対策、目標等を定めたもの。

2 サステナビリティ

①サステナビリティ戦略

持続可能な国際園芸博覧会を実現するため、「2027年国際園芸博覧会サステナビリティ戦略」（以下、「サステナビリティ戦略」）において基本方針や目的・目標等を定めた。

②サステナビリティ実施計画

サステナビリティ戦略にて定めた方針を実行に移すため、「2027年国際園芸博覧会 サステナビリティ実施計画」（以下、「実施計画」）において具体的なアクションやそのアクションに関わるステークホルダー等を提示した。

③サステナビリティ教育計画

「2027年国際園芸博覧会 サステナビリティ教育計画」（以下、「教育計画」）は、全てのステークホルダーに対して、サステナビリティに関する意識向上や学習を促進することを目的として策定した。

④サステナビリティコミュニケーション・エンゲージメント計画

「2027年国際園芸博覧会 サステナビリティコミュニケーション・エンゲージメント計画」（以下、「コミュニケーション・エンゲージメント計画」）は、様々なメディアでの情報発信と双方向のコミュニケーション等により、本博覧会のテーマやサステナビリティに関するメッセージを全てのステークホルダーを対象に発信することを目的として策定した。

⑤資源循環の考え方

「サステナビリティ戦略」等の内容を踏まえ、「2027年国際園芸博覧会資源循環の考え方」（以下、「資源循環の考え方」）を策定した。資源循環の考え方は、国際園芸博覧会初の試みとして、本博覧会における準備・工事・開催・撤去の各段階における資源循環の検討方針や対策、目標等を定めている。また、国内外の資源循環の潮流や議論、法令等の遵守・尊重、環境影響評価における推計値等を踏まえて作成し、未来社会を見据えた本博覧会の名「GREEN×EXPO 2027」にふさわしい取組を推進することを目的としている。

2 サステナビリティ

(2) 持続可能性有識者委員会

前述の戦略や計画等の策定、サステナビリティの取組推進に当たり、2023年10月から関連分野の有識者によって構成される持続可能性有識者委員会を設置し、原則として年2回開催している。同委員会では、幅広く複雑に絡み合うサステナビリティの取組に対して、専門的視点から意見や提案等が審議、検討され、協会の計画や取組に反映されている。

● 持続可能性有識者委員会の開催状況

開催回	開催日	主な議題
第1回	2023年10月23日	1 持続可能性有識者委員会の設置 2 AIPH規則等（サステナビリティ関係）の要求事項と対応の方向性 3 サステナビリティ戦略・実施計画の方向性 4 持続可能性に配慮した調達コードの方向性
第2回	2023年12月19日	1 サステナビリティ戦略・実施計画 2 持続可能性に配慮した調達コード
第3回	2024年9月11日	1 AIPH規則等（サステナビリティ関係）の要求事項と対応の方向性 2 教育・コミュニケーション・エンゲージメント計画の方向性 3 持続可能性に配慮した調達コードの通報受付窓口
第4回	2024年12月4日	1 教育・コミュニケーション・エンゲージメント計画 2 資源循環の考え方
第5回	2025年9月9日	1 過年度の委員会における御意見のレビューと対応等の方向性 2 プレイベント・サステナビリティレポートの作成 3 持続可能性に配慮した調達コードの運用 4 ESMS（イベントサステナビリティマネジメントシステム）の構築・ISO20121認証取得に向けた対応状況
第6回	2026年1月13日	1 各部の取組状況について 2 プレイベント・サステナビリティレポート（案） 3 持続可能性に配慮した調達コードの一部改訂

2 サステナビリティ

(3) ESMSの構築とISO 20121認証取得

ESMS（イベントサステナビリティ・マネジメントシステム）とは、イベントにおける目標を達成するため、環境・社会・経済への影響を統合的に管理し、計画・実行・評価・改善（PDCA）のプロセスを通じて適切に運用するための仕組みである。ESMSを組織内に構築することにより、本博覧会と社会との関係性、社会に与える影響及びステークホルダーの期待を的確に把握し、継続的な改善を行うことで、プラスの影響を最大化し、マイナスの影響を低減することを目指す。

本協会では、持続可能なイベント運営の国際規格であるISO 20121の要求事項に基づき、目的及び目標の達成に向けた基本的なルールを定める「ESMSマニュアル」を2025年11月に策定した。

ISO 20121の要求事項への適合については、2026年2月から3月にかけて、外部認証機関によるマニュアル等の文書審査、各部署へのヒアリング、現地審査などが実施され、その結果、2026年6月25日に「ISO 20121:2024」の認証を取得した。



認証書授与

● ESMS運営体制

ESMSの運営体制として、本協会事務総長をトップマネジメントと定義し、サステナビリティ推進部長がESMS管理責任者、サステナビリティ推進部がESMS推進事務局を務め、監査課が内部監査を実施する。ESMS推進事務局は、ESMSの体制構築やそれに伴う協会内コミュニケーションの推進を行う。

2 サステナビリティ

● サステナビリティ研修・ESMS研修の実施

最新動向の把握や今後の更なる活動の推進に向けて、協会職員が講師を務めるほか、専門的な分野については外部の専門家講師を招き、サステナビリティに関する各種勉強会や研修を実施している。

また、持続可能性に配慮したイベントを運営するためには、協会内にESMSを浸透させていくことが必要であるため、協会職員を対象としたESMS研修も複数回実施している。

● 協会職員等への研修実績

研修概要	概要
研修名：サステナビリティ研修 日時：2025年4月 対象：協会幹部	サステナビリティの国内外潮流、他イベントにおける取組状況、本博覧会への期待等
研修名：サステナビリティ研修 日時：2025年5月 対象：協会職員	サステナビリティの国内外潮流、他イベントにおける取組状況、本博覧会への期待等
研修名：資源循環の考え方についての勉強会 日時：2025年9月 対象：協会職員	講師：ジャーナリスト・環境カウンセラー崎田裕子氏（協会持続可能性有識者委員会委員長） 資源循環の重要性、大阪・関西万博における資源循環の取組
研修名：ESMS研修 日時：2025年9月 対象：協会職員	講師：外部サステナビリティ専門家 ESMSの概要、ESMSとサステナビリティの取組との関係性
研修名：ESMS研修 日時：2026年3月 対象：協会職員	ISO規格及び「ESMSマニュアル」の概要説明

2 サステナビリティ

2.4 サステナビリティ基本方針と目的・目標

サステナビリティ戦略では、AIPHの規則等に基づき、基本方針（別紙1）、5つの目的及び12の目標を設定し、これらの目的・目標に対応する重要業績評価指標（KPI）を設定し、毎年度、進捗管理を行うこととしている（別紙2）。

なお、目的・目標は相互に関係しているため、取組間のトレードオフを最小化し、相乗効果を生むような取組を推進する。

基本方針	1 人権、2 労働、3 腐敗防止、4 ダイバーシティ & インクルージョン、5 アクセシビリティ、6 環境
5つの目的	1 気候変動対策、2 生物多様性の保全、3 サステナブルな調達と資源管理、4 公平性と包摂性、5 サステナビリティ教育と意識向上
12の目標	1 生物多様性、2 水環境、3 脱炭素、4 エネルギー、5 公害対策、6 廃棄物と解体、7 建設、8 デザイン・計画、9 交通・会場内移動、10 海外からの参加者、11 サステナブルなイベント運営、12 レガシー

2.5 目的ごとの具体的な取組内容

2.5.1 気候変動対策

（1）基本方針及び取組の方向性（環境）

基本方針

- 1 環境負荷の低減に向けて、予防的アプローチを行い、継続的に改善する
- 2 環境責任を全うし、環境にやさしい技術の開発と普及を促進する
- 3 日本の伝統に学び、国内外を問わず社会全体の活性化の一助とする
- 4 人と自然との共生の在り方を発信し、一人ひとりの意識変容・行動変容につなげる
- 5 国際規範を尊重するとともに国内法令を遵守し、GX（グリーントランスフォーメーション）やネイチャーポジティブ（自然再興）の実現に向けた取組を通じて、生物多様性の保全、気候変動対策等の環境対策を推進する

2 サステナビリティ

取組の方向性

- 1 協会が主導して本園芸博に関わる全ての関係者に対して遵守を啓発する
- 2 出展者、サプライヤー、サプライチェーン等に対し、調達コードを通じて取組を促進する
- 3 協会内部における環境教育・啓発を十分に実施する
- 4 自然環境を生かした会場やテーマ共創事業「Village」を通じて、テーマ「幸せを創る明日の風景」を創出する
- 5 自然環境の保全と活用、環境負荷の低減を目指す
- 6 脱炭素化を目指し、再生可能エネルギーの利用、3R+Renewable等を推進する

(2) 取組内容

■ 再生可能エネルギー100%の電力調達等を推進中

会場の電気は、再生可能エネルギー100%かつ県内で発電された電気を使用し地産地消を推進する等、可能な限り環境に配慮した取組を進めている。

■ 省エネルギー対策

会場における各種省エネルギー対策について、以下のような取組を推進している。

- レンタル品・リース品による仮設建築物整備
- 建設機械・搬入車両等のエネルギー効率の高い低燃費導入及び性能の維持確保
- 会議室等の未使用時消灯を徹底
- 場内施設の省エネ型設備（空調、LED照明や映像機器のLED化、高効率給湯器等）の導入
- 太陽光パネル設置等
- 水素を活用した取組の検討

2 サステナビリティ

■ 暑さ対策

本博覧会の開催地の谷戸地形や湧水、既存樹林を活かし、風が抜ける涼やかな環境をつくり出す予定である。会場内には緑陰や水辺に加え、給水スポットや屋内休憩空間も点在し、夏の暑さの中でも安心して過ごせる工夫を行う。

屋外対策

- 日陰やミスト（休憩空間や待機列）
定期的な休憩や飲食に使用できるよう、日陰の休憩空間をつくります。また、暑い場所に居続ける必要がある待機列に、日除けやミスト設置など対策を講じます。
- 給水スポットや自動販売機等
こまめな水分補給ができるよう、給水スポットや自動販売機を各所に配置するとともに、涼を感じていただけるよう、打ち水などのイベント誘致を検討します。
- 夜間開園
涼しい環境で楽しんでいただけるよう、夜間開園を実施します。
- 来場者への呼びかけやスタッフ対策
来場者への対策への呼びかけを行うとともに、スタッフへの対策を行います。



屋内空間の提供

会場内各所に設置の出展施設や飲食施設などにより、空調のきいた屋内空間を確保します。

■ “樹木輸送”プロジェクト「緑配便®」

2026年3月に大阪・関西万博の会場内の樹木を本博覧会の会場に移設する際、共創パートナーと連携し、環境配慮型の樹木配送サービス「緑配便®」により鉄道輸送を実施した。

輸送した樹木は、「モーダルシフトによる脱炭素化」の取組の実証例として、来場者にわかるように明示する。



GREEN×EXPO 2027 ラッピングコンテナ

2 サステナビリティ

2.5.2 生物多様性の保全

(1) 基本方針及び取組の方向性（環境）

「2.5.1（１）」に同じ。

(2) 取組内容

■ 自然環境を生かした会場計画

本博覧会の会場となる旧上瀬谷通信施設は、横浜市の郊外部（旭区・瀬谷区）に位置し、2015年に米軍から返還された約242haの広大な土地で、そのうち約100haが本博覧会区域となる。

当地は、長年にわたり通信施設として土地利用が制限されてきたことから、農地や緩やかな起伏の草地など豊かな自然環境が広がり、南北に流れる相沢川、和泉川の源流部、谷戸地形等の貴重な自然資本が残っている。

本博覧会では、こうした計画地の環境を読み解き、かつて武蔵国と相模国の国境であった尾根地形、南北方向の水の流れ、風の動きや残されている樹木等の自然資本を活かした会場づくりを計画している。

■ 自然資本の保全

会場にある「相沢川」は、本博覧会会場となる旧上瀬谷通信施設内を流れる相沢川とその沿川にある農地で、会場ゲートのすぐ近くに位置する。

長年にわたり土地利用が制限されたため、豊かな自然環境が広がる旧上瀬谷通信施設では現在、横浜市がその特性を生かした土地区画整理事業、公園整備事業を実施している。同事業において「相沢川」は、自然資本として将来の公園において継承されていく。博覧会で耕作している農地を再現し、田畑のある谷戸景観として博覧会終了後も引き継ぐのは、国内の博覧会として初めてのことである。

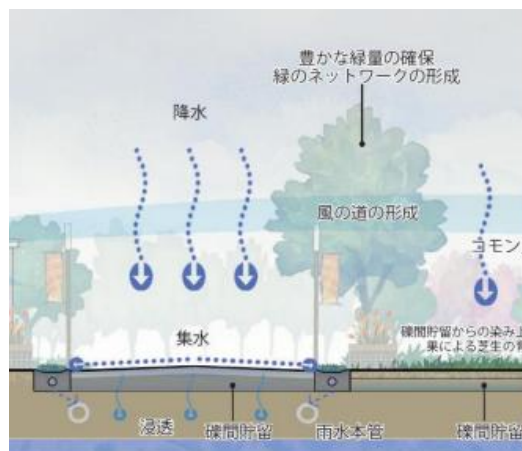


相沢川の景観（イメージ）

2 サステナビリティ

■ グリーンインフラの実装

本博覧会会場全体では、バイオスウェル（敷地内に降った雨水を集め、地中にゆっくりと浸透させる機能を持つ施設）を導入する予定である。バイオスウェルは、雨水流出抑制という都市型水害対策だけでなく、植栽地と土壌を通過することによる水質浄化機能や自然環境が有する多様な機能を活用したグリーンインフラであり、地域の生態系保護や生物多様性の維持につながる。



バイオスウェル

■ 自然との共生・生物多様性保全に関する取組の発信

- COP30 「ネイチャーポジティブ社会への変革－GREEN×EXPO 2027を機に－」の企画及び実施

2025年11月、ブラジルで開催された気候変動枠組条約COP30のジャパン・パビリオンにて、サイドイベント（農林水産省主催、国土交通省及び環境省共催）を実施した。本イベントでは日本政府、スタートアップ企業、科学者が登壇し、カーボンネガティブな農業実践者に焦点を当て、ネイチャーポジティブ社会の変革に向けて課題である資金調達は企業や行政により取り組まれるべきである等の意見交換がなされた。



気候変動枠組条約COP30

- 全国都市緑化フェアへの参加

2025年4月、第42回全国都市緑化ぎふフェアに参加し、GREEN×EXPO ラボ マスターアーキテクトを務める隈研吾氏（隈研吾建築都市設計事務所）がデザインを手がけた、自然と社会の調和を表現するモニュメントを展示した。モニュメントの制作に当たっては、移動・組立て・解体・保管・再利用が容易な設計とし、素材となる木材の調達は、持続可能な森林経営を実践する高等学校と連携した。

2 サステナビリティ

➤ 「人・自然・生命」シンポジウムを開催

2025年3月及び11月に、「人・自然・生命」シンポジウムを開催し、多様な分野のパネリストとともに緑や自然について考える機会を創出した。

3月に実施した第1回シンポジウムでは、「人にとって緑とは何か、なぜ花をめぐるのか」をテーマに、人はなぜ緑を求めるのか、行動の原理と心身への効果は何か、花に何を思うのかについて議論した。

11月に実施した第2回シンポジウムでは、「日本人の忘れ物～日本人の自然観～」をテーマに、古来より自然を畏怖、畏敬し、その中に身を置いてきた日本人だが、西欧化により薄れてしまったものは何か、日本人の自然観とは何かについて議論した。



「人・自然・生命」シンポジウム

■ 自然との共生に関する展示

テーマ館では、最新の科学的な知見をベースに、誰もが楽しく、感動を体感できるアート&エンターテインメントで演出し、ネイチャーベースドソリューション（自然を活用した解決策）に基づいた行動変容を促進し、ネイチャーポジティブ、サーキュラーエコノミーへの道標の役割を果たしていく。また、園芸文化館では、自然との共生や地域とのつながり、心の豊かさを改めて見つめ直し、その文化を未来へとつないでいく。



テーマ館展示のイメージ

2 サステナビリティ

2.5.3 サステナブルな調達と資源管理

(1) 基本方針及び取組の方向性（環境）

「2.5.1（１）」に同じ。

(2) 取組内容

■ 調達コード

「サステナビリティ戦略」等の内容を踏まえ、本博覧会の開催のために必要な物品・サービス・工事等について、持続可能性に配慮した調達を行うことを目的として、「持続可能性に配慮した調達コード」（以下、「調達コード」）を2024年1月に策定した。

調達コードの策定に当たっては、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会や2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）の先行事例を踏まえ、本協会の「持続可能性有識者委員会」で審議した意見を反映している。

物品別の個別基準には、先行事例で定めた物品に加えて、本博覧会独自の初めての取組として「植物の調達基準」を設定した。植物の調達基準では、GAP※や「みどりの食料システム戦略」などを踏まえ、周辺環境や生態系、作業者の労働安全や人権など、持続可能性に配慮した植物の生産を行うことなどを求めている。

※GAP（Good Agricultural Practices：農業生産工程管理）

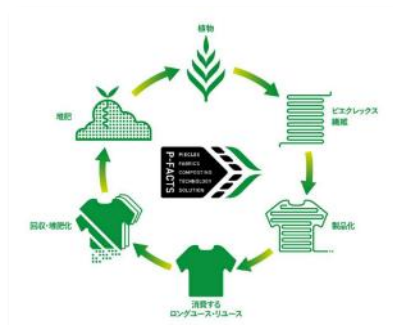
■ 「着る循環」社会実証プロジェクト

共創パートナー「Team P-FACTS（チーム・ピーファクト）」との連携により、1万人を超えるボランティア、運営スタッフ等のユニフォームを“Plant-First（植物由来）”の素材で統一し、「着用→回収→堆肥化→資源循環」までを見据えた実証（PoC）を、来場者の目の前で“見える体験”として展開する。2026年3月に公式ユニフォームのデザインと概要を公開した。

※「Team P-FACTS」は、本博覧会 のアテンダントスタッフ及びボランティアのユニフォームを協賛する共同企業体



アテンダントスタッフ・ボランティアユニフォーム



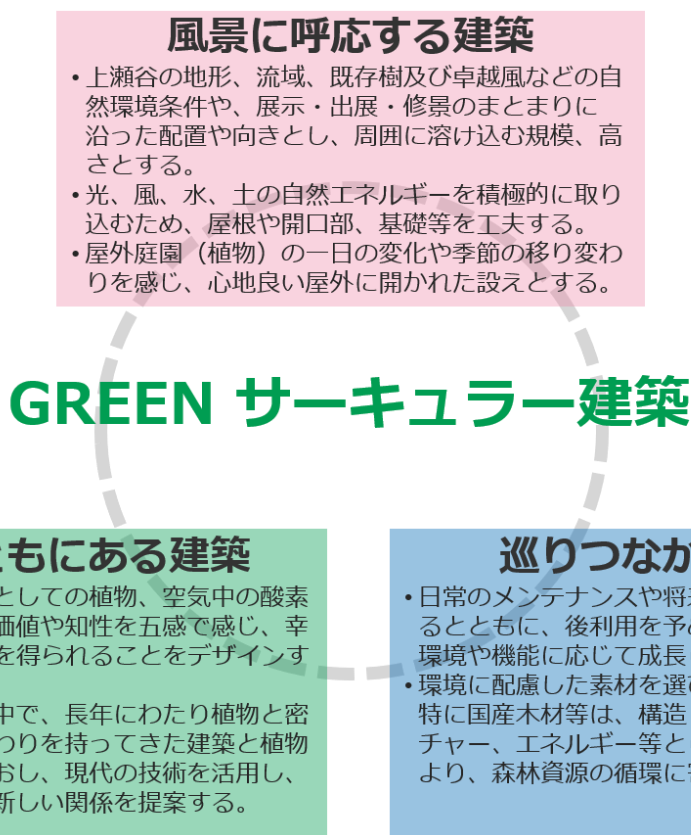
着る循環のイメージ

2 サステナビリティ

■ GX House（リユース型建築）

本博覧会の会場内の仮設建築物は、リース品やリサイクル可能な素材等を積極的に使用し、素材の調達から建設・運用・撤去・再利用まで廃棄ゼロを目指す循環型の「GREEN サーキュラー建築」とする。

この「GREEN サーキュラー建築」を実装するための取組として、当協会では「GX House」（リユース型建築）代行サービスを開始し、本サービスの提供者として「GX House サプライヤー」を10社認定した。本サービスの採用を希望する出展者の展示施設の設計施工を本協会が代行することで、環境負荷の低減とともに、工期短縮や事業リスクの低減等を図る。



■ 大阪・関西万博で使用した木材等のリユース

会場内では、大阪・関西万博の大屋根リングの木材がベンチやウッドデッキ、タワーへ再利用される。また、パビリオンで使用された資材等は、メインゲートや屋内出展施設に活用される予定である。

2 サステナビリティ

■ 花・緑の循環

本博覧会では、会場内の景観整備に、循環資源由来の肥料（堆肥含む）を最大限活用する予定である。また、植え替え後の植物等について来場者への花苗の配布や、公共施設での再利用を行うほか、会期中に発生する植物の残さを堆肥化し、会期後に続く地域のバイオマス資源の循環を推進する。



■ 会場における資源循環の取組

2025年3月に策定した「資源循環の考え方」では、再生可能な植物資源の活用など素材使用方針の設定、3Rと分別の徹底等、未来社会を見据えた本博覧会の名にふさわしい取組を推進することを定めている。

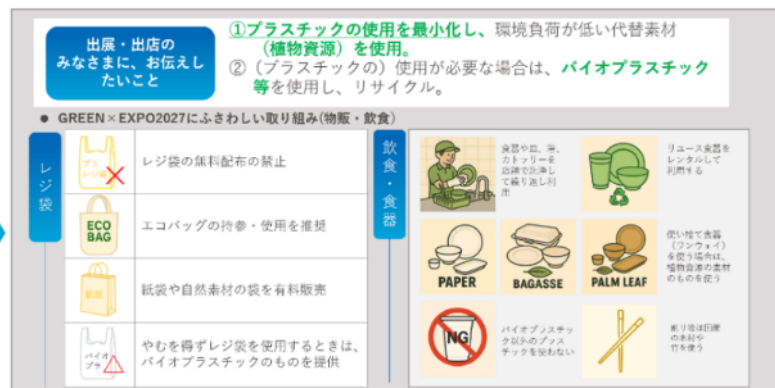
本博覧会では、「資源循環の考え方」に基づき、来場者、出展者、事業者などの様々な関係者と連携し、以下のような取組を推進する。

- リサイクルステーションを設置し、各ステーションで分別啓発を実施
- 再生可能な植物資源（木材、紙、植物油、バイオマス等）を最大限に活用し、プラスチックの使用を最小化

また、より良い取組を促すため、2026年5月に「資源循環の考え方」の補足資料を作成し、理解を深めていただくよう関係者へ呼びかけている。



「資源循環の考え方」



「資源循環の考え方 補足資料」

2 サステナビリティ

2.5.4 公平性と包摂性

I. 人権

(1) 基本方針及び取組の方向性

基本方針

- 1 本園芸博に関わる全ての関係者は、国際的に認められた人権を尊重する
- 2 「幸せを創る明日の風景」というテーマの実現に向けて、人権を尊重する

取組の方向性

- 1 国際的に認められた人権に関する国際規範を尊重する
- 2 あらゆる差別・ハラスメントを禁止する
- 3 地域住民等の権利侵害を禁止する
- 4 女性の権利を尊重する
- 5 障害者の権利を尊重する
- 6 こどもの権利を尊重する
- 7 社会的少数者（マイノリティ）の権利を尊重する

(2) 取組内容

■ 協会内の相談窓口の設置

本協会内部には、ハラスメント等の相談窓口を設けている。

また、労務や職場環境に関する外部相談受付窓口として、「あんしん相談センター」を設け、労務のプロである外部の相談員が、客観的な立場で相談者の話を聞く体制を整えている。さらに、カラダの不調や悩みを医師に気軽に相談できる窓口や、協会の産業医に相談できる環境も整えている。

■ 労働に関する取組状況

本協会は、物品・サービス・工事等の調達における持続可能性への配慮を実現するための基準や運用方法等を定めた調達コードを策定している。本協会との契約者・出展者等には、契約内容の履行にあたって、調達コードの内容・基準等の理解に努め、遵守することを求めている。

契約や出展等を希望する際に提出を求めている「持続可能性の確保に向けた取組状況について（チェックシート）」には、人権や労働に関する項目も含んでおり、国際的人権基準や国際的労働基準等の遵守・尊重を義務付けている。

■ 「人権に関する通報受付窓口」の設置

「人権に関する通報受付窓口」を2026年12月末までに設置するための準備を進めている。

2 サステナビリティ

II. ダイバーシティ & インクルージョン (D&I)

(1) 基本方針及び取組の方向性

基本方針

- 1 本園芸博の運営全般において関係者の多様性を尊重する
- 2 多様な人々の視点や能力を生かし、先進的な国際園芸博覧会を実現する
- 3 本園芸博を契機として、社会全体にダイバーシティ & インクルージョン（多様性と包摂性）の意識の浸透を図る

取組の方向性

- 1 職員の募集や採用、配属等における不利益な取扱いを防ぐ
- 2 多様な人材が活躍できる環境を整備する
- 3 出展者やサプライヤーなどにダイバーシティ & インクルージョンの取組を促す
- 4 本園芸博を契機とした社会全体でのダイバーシティ & インクルージョン意識の醸成に寄与する

(2) 取組内容

■ 組織のD&I

職員は横浜市、神奈川県、国、民間企業などから構成されており、多様性のある職場づくりに向けて若手職員や女性職員の登用も積極的に行うなど、本協会は組織内のD&Iを促進している。

● 2026年4月1日時点のD&Iの状況

協会職員に占める若手職員比率（30歳以下）	12.2%
協会職員に占める女性比率	28.5%
協会管理職に占める女性比率	13.3%
協会役員に占める女性比率	28.6%

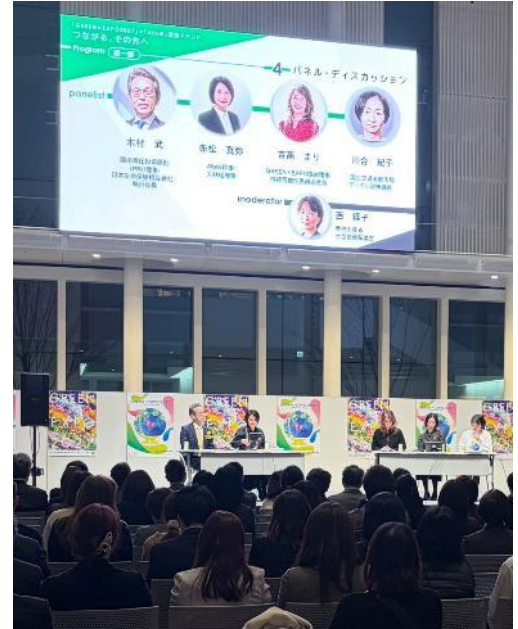
※職員及び管理職の比率は正規職員を対象に算出。

2 サステナビリティ

■ 「ダブルアイ」プロジェクト

本協会では、大阪・関西万博ウーマンズパビリオンのレガシーを継承し、ポストSDGs及び次世代へとつなぐ女性活躍・ジェンダー平等推進の取組として、日本の未来を切り拓くキーワードである「Inclusion（包摂）」を、一人ひとりが自分ごと「I（私）」として捉えることを目指す「ダブルアイ」プロジェクトを実施している。

2026年3月に、横浜市役所アトリウムにおいて、「つながる、その先へ ～大阪・関西万博2025のレガシーを GREEN×EXPO 2027へ、そしてポスト2030に～」を表題に、本博覧会開催1年前と国際女性デーに合わせたイベントを開催し、大阪・関西万博のレガシーとして、女性のジェンダー平等を本博覧会へ引き継ぐことを発信した。



国際女性デーに合わせたイベント

III. アクセシビリティ

（1）基本方針及び取組の方向性

基本方針

- 1 多様な利用者のニーズを踏まえたハード・ソフト面の対応を推進する
- 2 「移動」と「利用のしやすさ」の連続性を考慮した環境整備を推進する

取組の方向性

- 1 円滑な移動環境を整備する
- 2 利用しやすい施設を整備する
- 3 案内機能及び人的支援の充実を推進する
- 4 多様な手段により、適切な情報提供を行う
- 5 適切な整備・支援を実現するための仕組みを構築する
- 6 関係機関と連携を図り、参加者の来場を促進する

2 サステナビリティ

(2) 取組内容

■ アクセシビリティ・ガイドラインの策定

当事者団体等も委員として参加した「アクセシビリティ・ガイドライン検討会」を3回開催し、2025年3月に「2027年国際園芸博覧会 アクセシビリティ・ガイドライン」を策定した。共用空間・庭園・建築物、交通アクセスの個々の施設整備やサービス運用に関して、法的拘束力の有無にかかわらず遵守すべき標準基準に加え、本博覧会開催において特に推奨する推奨基準を定めている。

■ アクセシビリティの実装

アクセシビリティ・ガイドラインに基づき、2026年4月に、本協会内の指針として「アクセシビリティ実装計画」を策定した。本博覧会を訪れる全ての人々が本博覧会の特徴である花・緑とふれあい、かつ、さまざまな出展や活動も楽しめるよう、ハード・ソフトが一体となった連続的なアクセシビリティの推進を図る。

また、障がい当事者や学識経験者等の意見をもとに、バリアフリーマップなどの情報提供を充実させ、アクセシビリティセンターなどの共用空間の環境整備を進めている。



※現時点での検討状況であり、今後変更が生じる可能性があります。

2 サステナビリティ

2.5.5 サステナビリティ教育と意識向上

(1) サステナビリティ教育計画

2025年3月に、本博覧会の準備、開催運営等を通じ、全てのステークホルダーに対して、サステナビリティに関する意識向上や学習を促進することを目的として、「サステナビリティ教育計画」を策定した。

教育計画では、サステナビリティ教育に関する目標・アクションを定めている。

(2) サステナビリティコミュニケーション・エンゲージメント計画

2025年3月に、様々なメディアでの情報発信と双方向のコミュニケーション等により、本博覧会のテーマやサステナビリティに関するメッセージを来場者や市民・地域社会等の対象者に発信することを目的として、「サステナビリティコミュニケーション・エンゲージメント計画」を策定した。

コミュニケーション・エンゲージメント計画では、サステナビリティコミュニケーション及びエンゲージメントに関する目標・アクションを定めている。

(3) アクション

■ 教育プログラム コンセプトブック

こどもたちの自ら考える力や想像力を育み、新たな価値観、行動変容のきっかけとなることを目指して、2024年11月にコンセプトブックを公表した。また、2025年7月にはデジタル×探究教材を公表し、児童・生徒の探究学習の機会を提供している。

■ 公式ウェブサイト、SNSの活用

本博覧会は、公式ウェブサイト、Instagram、Facebook、X（旧ツイッター）、YouTube、LinkedInにて情報を発信している。特に、Instagramでは季節の花や横浜の公園、イベントにおけるPR活動の様子等を発信し、フォロワー数は8万人を超えている。また、発信の際は、公式マスコットキャラクターである「トウナクトウナク」を活用し、広い世代の人々に親しみやすい情報発信・機運醸成を行っている。



2 サステナビリティ

■ 地域イベントとの連携

本博覧会は、全国都市緑化フェア、浜名湖花博2024（20周年記念事業）等様々な地域イベントとの連携を実施している。その中でも、2025年5月に開催した国内最大級の園芸イベント「横浜フラワー＆ガーデンフェスティバル2025」（横浜フラワー＆ガーデンフェスティバル2025実行委員会主催）では、気候変動や生物多様性をテーマにしたガーデンの展示や、生け花や盆栽などの和の園芸文化を伝えるコンテンツを通じて、花や緑の魅力や、グリーンの持つ力を発信した。



本博覧会協会PRブース



横浜フラワー＆ガーデン
フェスティバルの様子

■ 花と緑の共創推進会議

本協会は、本博覧会に向けた機運醸成、出展・展示の企画等に関する提案や意見交換を通じて、花き園芸・造園の産業の振興に繋がる国際園芸博覧会とすることを目的として、2023年2月に「花と緑の共創推進会議」を設立した。2026年4月現在、花・緑と関係の深い49団体が参加している。

2026年2月には、「第4回GREEN×EXPO 2027 花と緑の共創推進会議」を開催し、花と緑の共創推進会議参加団体及び花・緑出展者（298名）が一堂に会し、花・緑出展者10者が屋外・屋内の出展内容を発表した。

■ リフィル・サーキュラープロジェクト

本プロジェクトは、博覧会における最大のリスクである酷暑を、「科学・環境・循環」の視点から解決し、次世代の都市運営モデルである「横浜モデル」を世界に発信することを目的として、本協会が関係組織と連携して立ち上げたものである。民間事業者、横浜市、学識者が参加しており、2026年5月から定期的に会議を開催し、本博覧会終了後までに横浜モデルを発信する予定である。

2 サステナビリティ

■ 「GREEN LEADERSHIP CLUB」の推進

本博覧会は、花や緑、農・食の未来を担う次世代リーダーを目指す県立農業高校5校とともに共創プロジェクト「GREEN LEADERSHIP CLUB」を立ち上げ、本博覧会のテーマなどを学び、企画案を考えるなどの活動を実施している。本活動は、5校の生徒約70名や教員に加え、神奈川県教育委員会、神奈川県、横浜市、川崎市の支援により運営されている。約6回にわたる講義やグループワークを踏まえ、学生によるプレゼンテーション発表会が実施された。また、2025年12月には出店計画ワーキングが開催され、本博覧会期間中の庭園出展を予定している。



プレゼンテーション発表会の様子

■ インターンシップ

インターンシップの募集に対しては19大学65名の応募があり、①植物維持管理体験プロジェクトは延べ8名、②植物の調達・維持管理システム開発プロジェクトは1名、③GREEN×EXPOの魅力発信、認知拡大実践プロジェクトは延べ6名、④持続可能な社会の実現に向けた博覧会会場の提案！課題解決型プロジェクトは延べ3名の計18名の学生が参加した。インターンシップ活動状況は、協会ホームページでも発信している。



バラの剪定・除草を体験する様子



リサイクル現場視察の様子

3 持続可能な開発目標 (SDGs) への貢献



3 持続可能な開発目標（SDGs）への貢献

3.1 SDGsへの貢献

本博覧会を「SDGs達成に貢献するとともに、その先の社会も見据えた日本モデルを提示する場」とする。また、博覧会開催後も、さらなる展開として、「環境と共に生きる」知恵・行動を世界に伝播し、SDGs達成やグリーン社会に向けた日本モデルの実現・主流化につなげていく役割を果たすとともに、友好と平和や持続可能なまちづくりの姿を国内外に発信し、第二次世界大戦後の米軍基地跡地の平和的利用の象徴的な先例としていく。

3.2 SDGs目標の達成方法

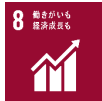
本博覧会では、SDGs 達成目標年の3年前に開催される国際園芸博覧会として、開催を通じてSDGsに掲げる目標・ターゲットのうち17の目標と33のターゲットの実現に向け、以下のとおり貢献する。

なお、各目標は密接に関連しあっており、複数の目標に貢献するような統合的な取組の促進や、あるいは、個別目標達成のために別の目標にネガティブなインパクトが生じる可能性を削減するなど、各目標を超えた視点で取組を推進する。

● SDGs目標への貢献方法と本博覧会サステナビリティ目的との関係

SDGs目標	本博覧会の貢献方法	サステナビリティ目的
目標 1 あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる 	✓ 開発途上国の本博覧会への参加を通じて、気候変動の適応等の知識や技術の発信等により貢献	1.気候変動対策 5.サステナビリティ教育と意識向上
目標 2 飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する 	✓ 持続可能性に配慮した調達コードの策定・運用や、本園芸博の展示による啓発等を通じて、サステナブルな農業を促進することにより貢献	3.サステナブルな調達と資源管理
目標 3 あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する 	✓ 新興感染症（新型コロナウイルス感染症（COVID-19）等）に対処することにより貢献	4. 公平性と包摂性

3 持続可能な開発目標（SDGs）への貢献

SDGs目標	本博覧会の貢献方法	サステナビリティ目的
目標4 すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する 	✓ 本園芸博の開催を通じた、花き園芸・造園業界に従事する人々の技能の育成等により貢献	4. 公平性と包摂性 5. サステナビリティ教育と意識向上
目標5 ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児のエンパワーメントを行う 	✓ 協会の雇用、人事管理及び持続可能性に配慮した調達コードの策定・運用等により貢献	4. 公平性と包摂性
目標6 すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する 	✓ 横浜市による下水道の整備と本園芸博での活用により貢献	3. サステナブルな調達と資源管理
目標7 すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する 	✓ 再生可能エネルギー電気の調達100%、持続可能性に配慮した調達コードの策定・運用等により貢献	1. 気候変動対策
目標8 包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する 	✓ 持続可能性に配慮した調達コードの策定・運用等により貢献	3. サステナブルな調達と資源管理
目標9 強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る 	✓ 持続可能性に配慮した調達コードの策定・運用等により貢献	3. サステナブルな調達と資源管理
目標10 各国内及び各国間の不平等を是正する 	✓ 「基本方針4 ダイバーシティ＆インクルージョン」に基づく取組により貢献	4. 公平性と包摂性

3 持続可能な開発目標（SDGs）への貢献

SDGs目標	本博覧会の貢献方法	サステナビリティ目的
目標 1 1 包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する 	✓ 廃棄物・リサイクルに関する取組により貢献 ✓ 本園芸博を通じたサステナブルな緑地や公共空間の取組の発信等により貢献	3. サステナブルな調達と資源管理
目標 1 2 持続可能な生産消費形態を確保する 	✓ 持続可能性に配慮した調達コードの策定・運用等により貢献 ✓ 廃棄物・リサイクルに関する取組、持続可能性に配慮した調達コードの策定・運用等により貢献 ✓ 本園芸博を通じたサステナブルな社会や自然と調和したライフスタイルの発信等により貢献	3. サステナブルな調達と資源管理 5. サステナビリティ教育と意識向上
目標 1 3 気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる 	✓ 気候変動の適応等の知識や技術の発信等により貢献 ✓ 本園芸博を通じた気候変動対策の推進と発信等により貢献	1. 気候変動対策 2. 生物多様性の保全
目標 1 4 持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する 	✓ 持続可能性に配慮した調達コードの策定・運用等により貢献	3. サステナブルな調達と資源管理
目標 1 5 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する 	✓ 持続可能性に配慮した調達コードの策定・運用や、生物多様性に配慮した会場計画等により貢献	2. 生物多様性の保全 3. サステナブルな調達と資源管理

3 持続可能な開発目標（SDGs）への貢献

SDGs目標	本博覧会の貢献方法	サステナビリティ目的
目標 16 持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する 	✓ 「基本方針3 腐敗防止」に基づく取組により貢献	（サステナビリティ戦略 基本方針 3 腐敗防止）
目標 17 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する 	✓ 開発途上国を含むすべての国々が本園芸博に参加・出展しやすいように支援することにより貢献 ✓ 本園芸博の様々なステークホルダーとパートナーシップを構築し、本園芸博を成功させること等により貢献	4. 公平性と包摂性

（出典）SDGsの目標は外務省仮訳より抜粋

別紙1 サステナビリティ戦略 基本方針



分野	基本方針	取組の方向性
人権	1. 本園芸博に関わる全ての関係者は、国際的に認められた人権を尊重する 2. 「幸せを創る明日の風景」というテーマの実現に向けて、人権を尊重する	1. 国際的に認められた人権に関する国際規範を尊重する 2. あらゆる差別・ハラスメントを禁止する 3. 地域住民等の権利侵害を禁止する 4. 女性の権利を尊重する 5. 障害者の権利を尊重する 6. こどもの権利を尊重する 7. 社会的少数者（マイノリティ）の権利を尊重する
労働	1. 協会職員の適切な労務管理を行う 2. 受注者・サプライヤー等の職員の適切な労務管理を行う	1. ILOの中核的労働基準などの国際規範を尊重する 2. 差別・ハラスメントを排除し、多様な人材が活躍できる職場をつくる 3. 職場環境の適切な整備を行う 4. 安全衛生を管理し、働きやすい職場づくりを推進する 5. 労働基本権などの労働者の権利を保障する 6. 強制労働を禁止する 7. 児童労働を禁止する 8. 賃金を保障する 9. 外国人・移住労働者の労働管理を行う 10. 就職困難者の雇用を促進する
腐敗防止	1. あらゆる形態の腐敗の防止に取り組む 2. 国際規範を尊重し、国内法令を遵守する	1. コンプライアンスの推進体制を構築する 2. コンプライアンス関連及び会計・契約事務関連規程等をホームページで情報公開する 3. 役職員へのコンプライアンスの意識啓発を実施する 4. 利益相反を抑止し、適切に対処・管理する

別紙1 サステナビリティ戦略 基本方針



分野	基本方針	取組の方向性
D&I	1. 本園芸博の運営全般において関係者の多様性を尊重する 2. 多様な人々の視点や能力を生かし、先進的な国際園芸博覧会を実現する 3. 本園芸博を契機として、社会全体にダイバーシティ&インクルージョン（多様性と包摂性）の意識の浸透を図る	1. 職員の募集や採用、配属等における不利益な取扱いを防ぐ 2. 多様な人材が活躍できる環境を整備する 3. 出展者やサプライヤーなどにダイバーシティ&インクルージョンの取組を促す 4. 本園芸博を契機とした社会全体でのダイバーシティ&インクルージョン意識の醸成に寄与する
アクセシビリティ	1. 多様な利用者のニーズを踏まえたハード・ソフト面の対応を推進する 2. 「移動」と「利用のしやすさ」の連続性を考慮した環境整備を推進する	1. 円滑な移動環境を整備する 2. 利用しやすい施設を整備する 3. 案内機能及び人的支援の充実を推進する 4. 多様な手段により、適切な情報提供を行う 5. 適切な整備・支援を実現するための仕組みを構築する 6. 関係機関と連携を図り、参加者の来場を促進する
環境	1. 環境負荷の低減に向けて、予防的アプローチを行い、継続的に改善する 2. 環境責任を全うし、環境にやさしい技術の開発と普及を促進する 3. 日本の伝統に学び、国内外を問わず社会全体の活性化の一助とする 4. 人と自然との共生の在り方を発信し、一人ひとりの意識変容・行動変容につなげる 5. 国際規範を尊重するとともに国内法令を遵守し、GX（グリーントランスフォーメーション）やネイチャーポジティブ（自然再興）の実現に向けた取組を通じて、生物多様性の保全、気候変動対策等の環境対策を推進する	1. 協会が主導して本園芸博に関わる全ての関係者に対して遵守を啓発する 2. 出展者、サプライヤー、サプライチェーン等に対し、調達コードを通じて取組を促進する 3. 協会内部における環境教育・啓発を十分に実施する 4. 自然環境を生かした会場やテーマ共創事業「Village」を通じて、テーマ「幸せを創る明日の風景」を創出する 5. 自然環境の保全と活用、環境負荷の低減を目指す 6. 脱炭素化を目指し、再生可能エネルギーの利用、3R+Renewable等を推進する

別紙2 サステナビリティ戦略 KPI

サステナビリティ目的/目標		KPI	基準値 【設定年度】	目標値 【達成年度】	2025年度の 実績/取組
目的 0-1	気候変動対策	計画地周辺における自然環境との連続性を持った緑のネットワークの構築	なし 【2024年度】	計画的な植栽整備 【2026年度】	植栽設計 植栽基盤整備の実施
目的 0-2	・生物多様性の保全 ・サステナビリティ教育と意識向上	参加者（地域連携やICT活用などの多様な参加形態を含む）	2027年国際園芸博覧会協会基本計画の策定 【2022年度】	1,500万人 【2027年度】	様々なコンテンツ発信による取組の浸透
目的 0-3	・サステナブルな調達と資源管理 ・公平性と包摂性 ・環境に配慮した建築素材の選定	持続可能性に配慮した調達コードの策定・運用	調達コードの策定 【2023年度】	調達コードの適切な運用 【2027年度】	調達コードの適切な運用確認
目標 1-1	生物多様性の保全	生物多様性の保全	なし 【2024年度】	注目すべき種の動植物相及びその生息・生育環境への影響、地域の生物多様性に係る影響を最小限に留める 【2027年度】	会場整備設計 会場内の整備工事（土木・造園・建築）の実施
目標 2-1	水消費量の削減	灌水消費量の削減	なし 【2024年度】	自動灌水エリアにおいて、人力灌水（20L/㎡/日）から点滴灌水（10L/㎡/日）へ削減 【2027年度】	保水材と灌水頻度を変えた植物毎試験の結果を設計者へ提供
目標 3-1	脱炭素化に向けた温室効果ガスの排出削減	温室効果ガスのスコープごとの排出量	・Scope1 BAU値 0.1万 t-CO2 ・Scope2 BAU値 0.4万 t-CO2 ・Scope3 BAU値 36.6万 t-CO2 ※BAU値=削減対策を実施しない場合の排出予想量 【2023年度】	排出対策後の排出量 ・Scope1 0 t-CO2※ ・Scope2 0 t-CO2※ ・Scope3 35.3万 t-CO2 ※排出対策により削減できないCO ₂ に関しては、オフセットを実施し、実質排出量ゼロを目指す 【2027年度】	温室効果ガスの削減対策の実施

別紙2 サステナビリティ戦略 KPI

サステナビリティ目的/目標		KPI	基準値 【設定年度】	目標値 【達成年度】	2025年度の 実績/取組
目標 4-1	建築のパッシブデザイン導入	建築のパッシブデザイン導入	なし 【2023年度】	自然環境条件に沿った建築整備 【2026年度】	会場ベースプランの更新・深度化、一部施設について建築確認済証の取得
目標 4-2	省エネ型の設備の導入	省エネ型の設備の導入	省エネ型の設備の導入検討 【2024年度】	省エネ型の設備の整備 【2027年度】	高効率な空調機器や断熱材・LED照明等の選定、使用電力量の抑制等を考慮した電気・機械設備の設計の実施
目標 4-3	再生可能エネルギーの最大限の活用	再生可能エネルギー電気の利用率	再生可能エネルギー電気の導入検討 【2024年度】	100% 【2027年度】	会期前の会場の電力調達について、再生可能エネルギー100%の電力供給契約を締結
目標 5-1	周辺環境への影響の低減	工事に伴う周辺の生活環境に著しい影響を及ぼさない	周辺の生活環境に著しい影響を及ぼさない 【2023年度】	周辺の生活環境に著しい影響を及ぼさない 【2028年度】	工事に伴う周辺の生活環境に著しい影響を及ぼしていない
目標 6-1	将来公園施設を展示施設として利活用	将来公園施設を展示施設として利活用	なし 【2023年度】	将来公園施設を活用した展示施設整備 【2026年度】	展示施設の実設計の進捗
目標 6-2	資源循環に配慮した仮設建築物整備	レンタル・リース品による仮設建築物整備	なし 【2023年度】	レンタル・リース品による仮設建築物整備 【2027年度】	一部施設について建築確認済証の取得
目標 6-3	廃棄物のリサイクルの推進	コンクリート塊のリサイクル率	なし 【2023年度】	100% 【2028年度】	100%
目標 7-1	土地区画整理事業や将来公園施設と連携した施設整備	土地区画整理事業や将来公園施設のインフラ利用率	なし 【2023年度】	100%（電気、ガス、通信、上下水道） 【2027年度】	保安照明ソーラーLEDセンサーライトを設置
目標 7-2	生態系に配慮した植物の維持管理の推進	生態系に配慮した植物の維持管理手法の検討	生態系に配慮した植物の維持管理手法の検討 【2023年度】	生態系に配慮した植物の維持管理の実施 【2027年度】	- 植物残さの堆肥化にむけた発生量の試算 - 植栽で使用できない植物種（特定外来種等）の確認

別紙2 サステナビリティ戦略 KPI

サステナビリティ目的/目標		KPI	基準値 【設定年度】	目標値 【達成年度】	2025年度の 実績/取組
目標 7-3	環境に配慮した建築 素材の選定	持続可能性に配 慮した調達コード の策定・運用	調達コードの策 定 【2023年度】	調達コードの適切 な運用 【2027年度】	チェックリスト の確認等による 調達コードの適 切な運用確認
目標 8-1	設計配慮指針の策定	設計配慮指針の 策定	なし 【2023年度】	設計配慮指針の策 定 【2025年度】	設計配慮指針の 策定済
目標 9-1	公共交通等による会 場アクセスの向上	公共交通等によ る会場アクセス の向上	なし 【2023年度】	近隣4 駅からシャ トルバスを運行、 会場及び会場外駐 車場の整備、運営 【2027年度】	来場者輸送実施 計画第2 版の策 定
目標 9-2	来場者が安全・快適 に移動できる会場計 画	来場者が安全・ 快適に移動でき る動線計画の策 定	なし 【2023年度】	・来場者の主動線 は、会場全体を 回遊する形状に 配置 ・西側のループと 東側のループに より、各コンテ ンツへの効率的 なアクセスを実 現 【2026年度】	会場園路設計 会場内の園路基 盤整備の一部実 施
目標 9-3	会場計画へのユニ バーサルデザインの 導入	ユニバーサルデ ザインガイドラ インの策定	なし 【2023年度】	ユニバーサルサー ビスの提供に関 するガイドライン を策定 【2024年度】	アクセシビリ ティ・ガイドラ イン策定済
目標 10-1	海外からの参加者 （公式参加者）に向 けた情報提供	海外からの参加 者（公式参加 者）に向けた情 報提供	公式参加者向け ウェブページの 開設（英語版） 【2022年度】	公式参加者向け ウェブページ等 を用いた情報提 供を行い、本園芸博 のサステナビリティ 戦略・実施計画や、 それらに則った出 展に係る各種指標、 環境配慮等に係る 規定について、展 示・出展に反映し てもらえるよう、 公式参加者へ周知 【2027年度】	公式参加者向け ウェブページ上 に各種規則・ガ イドライン・実 施計画・申請様 式等を掲載し、 随時公式参加者 へ案内を実施

別紙2 サステナビリティ戦略 KPI

サステナビリティ目的/目標		KPI	基準値 【設定年度】	目標値 【達成年度】	2025年度の 実績/取組
目標 11-1	食品ロスの削減の推進	食品ロスの削減の推進 ※公式参加者、一般営業出店、Village 出展、テーマ営業出店	食品ロスの削減の検討 【2023年度】	・無理なく食べきれぬ量やサイズのメニューの提供 ・来場者に呼びかけ 【2027年度】	食品ロス削減策定の検討
目標 11-2	テーマに沿った、音・光のコントロール	テーマに沿った、音・光のコントロール ※公式参加者、一般営業出店、Village 出展、テーマ営業出店、催事参加	テーマに沿った、音・光のコントロールの検討 【2023年度】	テーマに沿った、音・光のコントロール 【2027年度】	催事施設利用ガイド（案）の策定
目標 11-3	ESMS（イベント・サステナビリティマネジメントシステム）の構築	ESMS（イベント・サステナビリティマネジメントシステム）の構築	ESMSの導入に向けた検討 【2023年度】	ISO20121の認証取得・運用 【2027年度】	ESMSマニュアルの作成・研修、ISO20121審査
目標 12-1	博覧会施設の公園への継承	博覧会施設の公園への継承	なし 【2023年度】	博覧会施設の公園への継承 【2027年度】	博覧会終了後の施設撤去に向けた検討開始
目標 12-2	サステナビリティレポートの策定・AIPH報告	サステナビリティレポートの策定・AIPH報告	サステナビリティレポートの検討 【2023年度】	・プレイベント・サステナビリティレポートのAIPH報告 ・ポストイベント・サステナビリティレポートのAIPH報告 ・サステナビリティ及びレガシーレポートのAIPH報告 【2030年度】	プレイベント・サステナビリティレポート案の作成



EXPO
2027
YOKOHAMA JAPAN